

## 【 19年度 報告書 概要 】

### バランスシート

平成19年度末の資産合計は前年度末と比較して、有形固定資産の減少により約20億7,900万円の減、約1,743億500万円となりました。

資産の部では、有形固定資産が前年度比で約26億9,200万円減少しました。これは、普通建設事業により新規の有形固定資産取得価格が約19億7,800万円増加したものの減価償却費を約44億6,500万円計上したこと等によります。

流動資産については、財政調整基金等の積立により約6億9,000万円の増加となりました。

次に負債の部ですが、負債合計は地方債が約13億6,600万円減少したものの退職給与引当金が約5億5,100円増加したため負債全体では約8億1,500万円の減少となりました。

また、公共団体のバランスシートにおいて自己資金を意味する正味資産については、国県支出金の減価償却により、前年度より約12億6,400万円減少しています。

### 佐倉市全体のバランスシート

平成14年度決算分から普通会計に加えて、各特別会計を含めた佐倉市全体のバランスシートを並記方式で作成しています。

対象とする会計は「普通会計」「水道事業会計」「下水道事業特別会計」「農業集落排水事業特別会計」「国民健康保険特別会計」「交通災害共済事業特別会計」「老人保健特別会計」「介護保険特別会計」です。

普通会計と特別会計を含めた佐倉市全体の資産合計は、前年度より約18億4,800万円減少し、約2,251億600万円になりました。

### 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、地方公共団体の行政活動の中で人的サービスや給付サービスなど資産形成につながらない経費を行政目的別に集約したものです。

平成19年度の行政コスト総額は、前年度より約22億5,600万円増加し360億500万円でした。

これを目的別に見ますと、昨年同様に高齢者や障害者、児童福祉や生活保護などにかかる民生費コストが約114億3,300万円と最も高くなっています。次いで、社会教育施設の管理運営や小中学校運営費用などの教育費コストに約59億7,700万円かかっています。

しかし、民生費は国や県からの支出金も多く、市の一般財源の負担という観点から見ると、目的別経費における一般財源の比率は、民生費が62.3%に対し教育費が97.8%と高くなっています。

また、性質別にコストの構成比を見ても、扶助費、一部事務組合への負担金等からなる補助費、特別会計等への繰出金、他団体への補助金等に係る普通建設事業費を合わせた「移転支的コスト」が約138億円と全体38.3%を占めており、最も高くなっています。

次いで、物件費、維持補修費、減価償却費を合わせた「物にかかるコスト」に約113億1,200万円、人件費と退職給与引当金繰入等からなる「人にかかるコスト」に約98億8,700万円のコストがかかっています。また公債費利子分等にかかる「その他のコスト」については約10億800万円でした。